

# Hospital report

医療法人芙蓉会

## 筑紫南ヶ丘病院

(福岡県大野城市)

### 診療報酬改定を機に あるべき姿を院内外に明確に提示



前田俊輔理事



伊達豊医療介護連携本部長兼診療部長



要介護度の高い人を対象とした住宅型有料老人ホーム・メディカルケア  
二日市温泉

医療法人芙蓉会筑紫南ヶ丘病院(土器恒徳院長、250床)は開院以来、一般病院から療養病院へと移行してきた。開院20周年を迎えた2007年ごろからは、変わりつつある地域ニーズに対応し、急性期病院から医療依存度の高い患者を多く受け入れるようになった。同院は今年の診療報酬改定を踏まえ、地域医療機関との連携をさらに強化し、在宅復帰機能強化加算の届出や、地域包括ケア病棟の算定をめざしている。

#### 医療依存度高い患者を受け入れる態勢を強化

筑紫南ヶ丘病院は、福岡市のベッドタウンとして発展を続ける大野城市に位置しており、「患者さまに生きる活力と健康を促し、尊厳ある人生を送るお手伝いをいたします」を理念に、地域に根差した医療を提供している。

前田俊輔理事は開院20周年を機に、「今後は単に患者を受け入れるだけではだめだ。付加価値を高め、地域から選ばれる病院にならなくてはいけない」と職員に意識の変革を促した。「この地域は、福岡市が近いため高度医療は十分足りていますが、その受け皿となり得るポストアキュート機能が足りていません。当院が果たすべき役割は、ポストアキュート以降の機能だと考え

ました」と方針を決定。福岡市、および周辺地域の医療機関との連携を強化し、医療依存度の高い患者の受け入れ態勢強化に取り組んだ。

まず医師の採用にあたっては、急性期医療の実績があるうえで高齢者医療を志向している人を条件にした。また各職員に経営意識を持たせるため、経営方針の発表や事業の進捗状況を考える院内勉強会を定期的に行い、病院ビジョンの達成と、そのための経営努力の重要性を職員に浸透させていった。外部研修も積極的に導入し、「何のために仕事をするのか。患者中心の看護とは何か」といった、職員のワークモチベーションの向上にも力を注いだ。これらの取り組みの結果、急性期病院からの支持が得られるようになり、入院患者は医療区分2以上が90%以上を占めるようになった。

また、入居対象者を要介護3以上の重度者に限定した医療強化型・住宅型有料老人ホーム「メディカルケア二日市温泉」(61室)を建設し、緊急診療緊急入院を行い、地域ニーズが高まるサブアキュートの実績も積み重ねていった。

# 【慢性期】

「今後の医療改革によって、この地域に医療難民・介護難民と呼ばれる人々が出ないように、医療面にも強い住まいを提供し、郷土の家庭の安心を守りたいと考えました。この施設では寝たきりの方が離床する、要介護度が改善するなど、病院と違った付加価値を生み出しています。この経験は、来年病院の隣地に開設を予定している医療強化型の介護付き有料老人ホーム『メデイカルケア南ヶ丘』（100室）にも活かされ、手ごろな料金設定と本院とつながった廊下により、今以上の医療対応と病院との連携が望めます」と、前田理事は分析する。

## 亜急性期から終の棲家まで幅広く受け入れる

前田理事は14年度診療報酬改定の内容について、「当院が地域に必要な機能として積み重ねてきた方針に診療報酬が追いついてきた」ととらえている。同院では、今後進めていく方針を職員に明確に伝えるとともに、地域の医療機関や介護施設との連携を強化すべく、昨年には「医療・介護連携本部」を立ち上げた。14年2月に日本慢性期医



療協会の武久洋三会長を招き、今後の医療情勢についての講演会を実施したのもその取り組みの1つ。「この講演で『皆さんがやってきたことは間違っていない』と職員に再確認させ、自信をもって取り組ませたいと考えました。また、地域の

他の医療機関、特に診療所には、当院の特色や方針をきちんと理解してもらえる機会になったと感じています」と前田理事は胸を張る。医療・介護連携本部長と診療部長を兼ねる伊達豊医師は「大学病院など急性期病院に当院がめざす医

療を伝えています。一方、診療所とは今後3カ月に1度カンファレンスを実施するなど密なかかわりが必要となるため、個別に訪問し連携強化を図っています。当院は病院と有料老人ホームの窓口を一本化しており、利用者にとって適切な場所を提案できることをアピールしていきたいと考えています」と話す。

今後は、地域の医療機関との連携をさらに強化し、在宅復帰機能強化加算の届出や、地域包括ケア病棟の算定をめざしていく方針だという。前田理事は「地域包括ケア病棟は一つの病棟の種類を表すにすぎません。地域に選ばれるには、医療レベルの高さはもちろん、入院環境の良さ、リハビリの充実度、亜急性期から『終の住まい』まで利用者に合わせた幅広い医療・介護提供体制など、当院ならではの差別化された特色を出すのが肝要です。今後、さらなる医師の質の向上や医療機器の充実も図っていきたいと考えています。入退院システムの整備に取り組み、より急性期病院や連携先病院に支持される病院へと、職員とともに進化していきたいと思えます」と力を込める。